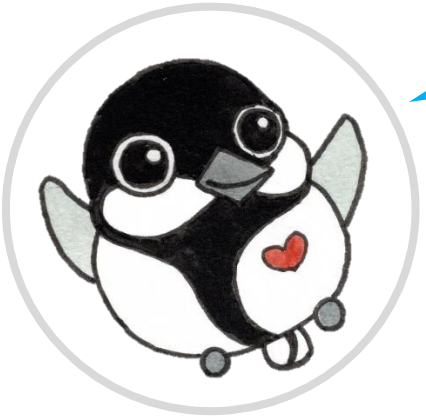
新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里機関紙　　令和４年２月１日発行

シジュウカラ 第100号

マスコットキャラクターの名前が決定しました！



「ぼくの名前は **つぴまる** です！」

令和３年10月１日～令和４年１月７日の期間で行いました愛鳥センター紫雲寺さえずりの里のマスコットキャラクターの名前の募集に新潟県内のみならず北海道から沖縄県まで全国各地から計242件の素敵な名前が寄せられました。応募いただいた中から当センター内に設置した選考委員会で厳正なる審査の結果、新潟県長岡市在住の中村有斐様の作品「つぴまる」に決定しましたのでお知らせいたします。多くのご応募ありがとうございました。詳細はホームページ（https://www.pref.niigata.lg.jp/site/aicho/）をご覧ください。

シジュウカラ第100号の発行によせて

所長　浅間　康代

日頃から愛鳥センター紫雲寺さえずりの里の事業にご協力をいただき、ありがとうございます。

機関誌「シジュウカラ第100号」をお届けします。

当センターが平成２年５月１日にオープンして以来、「シジュウカラ」を年３回（開業当初は４回）発行し、イベントの開催報告や傷病鳥獣の収容状況などをお伝えしてきました。

創刊号は平成２年６月30日発行、B4用紙２つ折りでモノクロの素朴なものでした。

なぜ「シジュウカラ」なのか。

『さえずりの里にも数多く普通に見られ、ツツピー、ツツピーとよく鳴きながら枝から枝へとせわしなく飛び移り、いかにも働き者といった感じ。（中略）巣箱にもよく入ってくれるので、誰にでも知られ、人なつっこい。（創刊号編集後記から引用）』ことが理由のようです。

今年度、シジュウカラをモチーフにしたマスコットキャラクターも登場しました。

第100号発行をひとつの節目とし、シジュウカラのように皆さまに親しみやすい愛鳥センターを目指していきます。今後も当センターをどうぞよろしくお願いいたします。

もくじ

１ページ　・マスコットキャラクターの名前が決定しました
　　・シジュウカラ第100号の発行によせて
２ページ　・特集　オオミズナギドリの収容事例が語ること
３ページ　・イベント案内（３月～６月）
　　・イベント報告（10月～12月）
４ページ　・傷病鳥獣の収容状況
　　・愛鳥センター利用案内

愛鳥センターHP
ＱＲコード

オオミズナギドリの収容事例が語ること

愛鳥センターでは、晩秋になると救護棟にミカン箱サイズの段ボールが複数並びます。中に入っている鳥は、オオミズナギドリです。粟島西海岸で集団繁殖しているオオミズナギドリが、晩秋の渡りの時期に落下してしまうようです。

2021 年は、オオミズナギドリが 15 羽収容されました。この収容数は例年よりも多く感じましたので、保存されている診療簿から収容事例をまとめてみました。

図 1 に 2011 年～2021 年の 11 年間におけるオオミズナギドリの収容数を示しました。11 年間の合計は 129 羽で、秋収容（10 月～12 月）のみでは 122 羽でした。

2012 年が 34 羽と飛び抜けて多く、2012 年だけ春収容（4 月～6 月）がありました。秋収容だけでも 2012 年が 27 羽と最も多く、2012 年以外は 4 羽～15 羽でした。

秋収容の最も早い保護は、10 月 21 日（2021 年・新潟市北区）で成鳥でした。最も遅い保護は、12 月 16 日（2011 年・新潟市中央区と 2017 年・魚沼市）で、12 月の収容はこの 2 回だけでした。秋収容 122 羽のうち、11 月中の保護は 114 羽で 93.4%を占めていました。

秋収容の 122 羽は、19 市町村の県内各地で広く保護されていました。新潟市が最も多く 31 羽で、次いで粟島浦村が 17 羽、柏崎市が 11 羽でした。粟島浦村では同じ島外者による 1 日 4 羽保護が 2 回（2012 年 11 月 2 日と 2016 年 11 月 5 日）、1 日 2 羽保護が 1 回（2012 年 11 月 10 日）あることから、晩秋の粟島浦村で地面に落下しているオオミズナギドリは珍しくない光景なのかもしれません。

また、人家近くの保護がほとんどでしたが、奥胎内ダムでの保護が 2 回（2014 年 11 月 14 日と 2016 年 11 月 12 日）あり、山間部への落下も認められました。なぜ、このようにオオミズナギドリが晩秋に新潟県各地で保護されるのでしょうか。

粟島で繁殖しているオオミズナギドリの GPS を使った最新の研究では、成鳥は繁殖期に巣に近づく以外に陸上を飛ぶことはなく、粟島からの渡りでも、北上して津軽海峡を抜けて太平洋を南下するルートと、反対に西に向かい対馬朝鮮海峡を抜けてから太平洋を南下するルートをとっています。しかし、粟島を巣立ったオオミズナギドリの幼鳥は成鳥と同じ飛行ルートではなく、本州の東北地方から中部地方を山越えして太平洋に至り、南下することが明らかになっています。

オオミズナギドリの成鳥は渡りが近づくと海上生活を始め、10 月下旬には巣に戻らなくなり、幼鳥よりも先に南方へ渡ります。給餌されなくなった幼鳥はそれまで蓄えた体内脂肪で羽を発達させ、自力で海に飛び出します。晩秋に新潟県内各地で保護されたオオミズナギドリの多くは、飛翔の未熟な幼鳥が太平洋に向かって本州を山越えする途中で体力の消耗や強風等により落下していたのです。

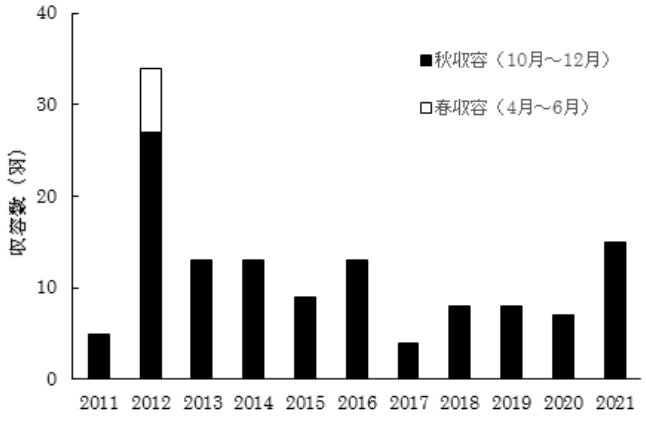


図1　オオミズナギドリの収容数（2011年～2021年）

写真 1　収容されたオオミズナギドリ

3月～6月イベント案内

新型コロナウイルス感染症の影響により内容が変更または中止になる可能性がありますので、HP 等で最新の情報を確認してください。

探鳥会

○ハクチョウを見送る会　（申込受付中）

日時：3月6日(日)　9:00～11:00
場所：お幕場大池公園（村上市）
定員：先着２０名（要申込）　参加費無料

○初心者探鳥会 ①、②（申込4/1～）

日時：① 4月23日(土)
② 4月29日(金・祝)
各 9:00～10:30
場所：愛鳥センター
定員：各先着 30 名（要申込）参加費無料

○愛鳥週間探鳥会　（申込4/1～）

日時：5月8日(日)　6:30～9:00
場所：大峰山
定員：先着 30 名（要申込）　参加費無料

○愛鳥教室「羽のしおり作り」

日時：5月３日(火・祝)～5日(木・祝)
13:30～15:00
会場：愛鳥センター
参加：申込不要　時間中随時受付　参加費無料

講座　○めざせ調査員！鳥の鳴き声勉強会 春編

日時：4月24日(日)　9:00～11:00
会場：愛鳥センター　　講師：愛鳥センター職員
定員：10 名(要申込)(申込 4/1～)
対象：小学校高学年以上で鳥の野外調査に興味がある方。(すでに調査できるレベルの方は対象外)

○野鳥保護の集い（愛鳥センター）

日時：6月 11 日(土)
会場：愛鳥センター
詳細が決まり次第 HP 等でお知らせします。
定員：先着 40 名（要申込）参加費無料
※講演会を通して野鳥保護思想の大切さを学びます。

特別展

愛鳥センター2 階ロビーにて開催。開館時間中自由に見学できます。
●野鳥写真展　2月 19 日(土)～5 月 5 日(木・祝)
●愛鳥ポスター展&春季特別展(外来生物に関する内容)　5月 14 日(土)～7月 10 日(日)

10 月～12 月イベント報告

探鳥会・観察会

◎清潟探鳥会

日時：令和３年 10 月 24 日(日)　9:00～11:00
場所：清潟公園(新発田市)　参加者：８名 観察種：35 種
カモ類や、渡り途中の小鳥などを観察しました。

◎弁天潟初心者探鳥会

日時：令和３年 12 月 12 日(日)　　9:00～10:45
場所：弁天潟風致公園(聖籠町)
参加者：11 名 観察種：22 種
ハクチョウやカモ類をじっくり観察しました。

講座

◎めざせ鳥調査員！鳥の鳴き声勉強会２

日時：令和３年 10 月 16 日(土)　9:00～11:00
場所：愛鳥センター　参加者：６名
さえずりよりもちょっと難しい、地鳴きの聞き分けについての講座を行いました。

愛鳥講演会

日時：令和３年 11 月 23 日(火・祝)
場所：県立生涯学習推進センター
テーマ：「生き物と仲良く暮らす取り組み、生き物の楽しみ方」
演題１：「たかさわ農園生きもの歳時記」
講師：高澤　綾子 氏（新潟県野鳥愛護会）
農作業での生き物に対する配慮や取り組み、畑や田んぼに訪れる生き物たちを紹介していただきました。
演題２：「私から見た鳥屋野潟公園の楽しみ方」
講師：山際　圭子　氏
(鳥屋野潟公園パークコーディネーター)
鳥屋野潟公園でお仕事をされている中で、日々出会った野鳥、昆虫、両生爬虫類、植物、動物などの様々な写真や映像を盛りだくさんに詰め込んで紹介していただきました

傷病鳥獣の収容状況

令和3年度　8月～11月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数	収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
（鳥類）								23	アオゲラ		1			1	0
1	キジ		1	1			0	24	チョウゲンボウ	4	2	2			4
2	コハクチョウ	3	6	4		3	2		ハヤブサ	1					1
	オオハクチョウ	1					1	25	オナガ		2	1		1	0
3	オシドリ		1			1	0	26	ハシボソガラス	2	1			1	2
4	マガモ		3			3	0		ハシブトガラス	1				1	0
5	カルガモ	7	1	7		1	0	27	シジュウカラ		1			1	0
6	コガモ		3	1		2	0	28	ツバメ	3	11	3		11	0
7	キジバト	1	3	1		2	1	29	ヒヨドリ		2			2	0
8	アオバト	3	4			4	3	30	ウグイス		10	5		5	0
9	フルマカモメ		1			1	0	31	ヤブサメ		2			2	0
10	オオミズナギドリ		15	9		6	0	32	メボソムシクイ		3	1		2	0
11	アオサギ	1	3	1		3	0	33	メジロ		1			1	0
12	ダイサギ	1	6	1		5	1	34	ムクドリ		1			1	0
13	オオバン		2	1		1	0		マミジロ	1					1
	ムナグロ	1					1	35	シロハラ		1	1			0
14	ヤマシギ		3	1		2	0	36	コサメビタキ		1			1	0
15	ウミネコ	2	3	2		1	2	37	オオルリ		1				1
16	ミサゴ		3	3			0	38	スズメ		6	2		4	0
17	トビ	12	3	3		1	11	39	ハクセキレイ		1	1			0
18	オオタカ		1			1	0	40	カワラヒワ	1	1	2			0
	サシバ	2					2	41	イカル		1	1			0
	ノスリ	4				1	3	42	ドバト		3	2		1	0
	クマタカ	1					1	43	不明		4	2		2	0
19	フクロウ	1	1	1			1	小計		55	123	60	0	79	39
	トラフズク	1				1	0								
20	コミミズク		1			1	0	（獣類）							
21	アカショウビン	1	1			1	1								0
22	カワセミ		2	1		1	0	小計		0	0	0	0	0	0
								合計		55	123	60	0	79	39

＜その他＞コサメビタキ：8例目（平成30年収容以来）、フルマカモメ：10例目（令和2年収容以来）

令和3年8月1日～11月30日までの収容数は、鳥類43種123羽、獣類0種0頭で、昨年度の同時期（鳥類164羽獣類1頭）と比べ鳥・獣類とも減少した。

利用者数

月	8月	9月	10月	11月	計	累計
来館者数	477	388	750	341	1,956	640,319
相談件数	51	25	61	32	169	－

館内設置のトキ募金箱の報告

令和３年８月～令和３年１２月　２，２３９円　　累計　３０８，５７０円

皆様の温かい善意に深く感謝いたします。今後とも御協力をお願いします。

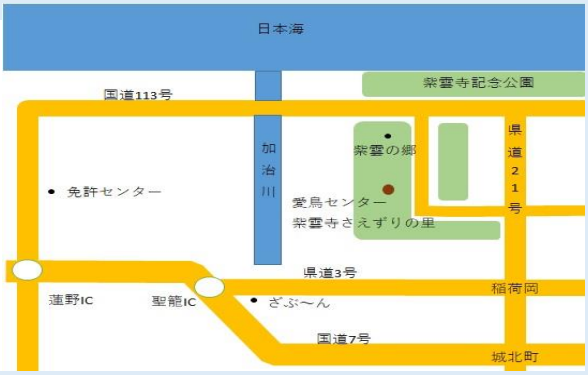
新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前９時～午後４時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231　新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp